

SDGs推進概要

提案全体のタイトル: 富士山の麓のまちから先端技術を発信、普遍的価値を守る未来都市

提案者名: 山梨県富士吉田市

全体計画の概要: 産学金官連携による新産業・先端技術へ挑戦し、環境負荷のかからない新たな富士登山の在り方を提案。富士山の普遍的な価値を守るとともに地域資源をブラッシュアップし、脱炭素ツーリズムという多様性のある四季折々の富士山の楽しみ方を創出。同時に地域課題を解決し、麓のまちとしてカーボンニュートラル達成へ向かう。

1. 将来ビジョン	<h3>地域の実態</h3> <p>最大の地域資源である富士山を未来に受け継ぐべき世界の宝と考え文化・環境の保全を図り、富士北麓エリアの高付加価値化に貢献していく必要がある。 地域課題は可住地面積が14.8%程度であり、加えて地域活力の低下など共通の社会課題も抱えているため、限られた土地の効果的な利活用が求められる。</p>		<h3>2030年のあるべき姿</h3> <p>①「富士みち」を中心としたまちづくりによる麓の街の活力向上 ②麓からの登山をはじめとした様々な富士山の魅力を掘り起こす ③世界文化遺産を抱えるまちとして脱炭素先端技術等を発信</p>		
	<h3>2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■富士と人の力で共にまちをつくり、将来に引き継ぐ ■富士の恵みを共に活かし、新しい魅力を生み出し、人を呼ぶ ■常に富士の雄姿と共にある、それを誇りとし、その環境を守り抜く 				
2. 自治体SDGsの推進に資する取組	<h3>自治体SDGsに資する取組</h3> <p>経済 ➢「ハタオリマチのハタ印」プロジェクト ➢伴走型の支援「アントレプレナーキャンプ」</p> <p>社会 ➢転倒予防都市宣言「ここ富士体操」 ➢人が人を呼ぶ「まちづくりエコシステム」</p> <p>環境 ➢2035年完全EV化へ「ワイヤレス給電」 ➢逃げ遅れを出さない「富士山火山災害対策」</p>	<h3>情報発信</h3> <p>域内 土砂災害・洪水ハザードマップでの普及啓発 ウクライナ支援の呼びかけ 自動運転EVバス乗車体験SDGs学習会</p> <p>域外 ふるさと納税を活用した情報発信 今に続く富士山の登山文化の変遷企画展</p> <p>海外 ホストタウン交流事業Youtubeチャンネル ウクライナ避難民の受入れ</p>	<h3>普及展開性</h3> <p>・象徴的な地域資源を活用した推進モデル 地域資源をブラッシュアップするとともにさらに掘り起こし、脱炭素ツーリズムという新しい富士山観光のあり方を提示 ・中山間地域における地域課題解決 地域特性を活かした「仕事づくり」など、地域資源やデジタル技術を活用し、生活の利便性を高めるモデルケース</p>		
	<h3>各種計画への反映</h3> <p>・デジタル田園都市構想第3期地域創生総合戦略 地域ビジョンを「誰一人取り残さない“ひと”中心の持続可能なまち」として、まちづくりの共通目標として、その達成に向けた取組を推進 ・富士吉田市SDGs推進指針において策定する計画や方針にSDGsの観点を導入することとしている</p>	<h3>行政体内部の執行体制</h3> <p>・市長を本部長とするSDGs推進本部を設置し、3側面への相乗効果を念頭に置いた事業をプロジェクトチーム、ワーキンググループで検討・具現化に取り組む ・全職員研修を実施、一人ひとりの持つ業務との結びつきの確認とSDGsの理念を人材育成に活用</p>	<h3>ステークホルダーとの連携</h3> <p>連包携括 ワイヤレス給電包括連携協定 地域づくりと人材づくり域学連携協定(株)リクルート</p> <p>DX 楽天グループ</p> <p>広域 富士山世界文化遺産協議会 富士箱根伊豆交流圏ネットワーク会議 富士・東部広域環境事務組合</p>		
3. 推進体制	<h3>自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等</h3>		<p>・現在富士山五合目にある施設での電力は、重油を燃料とした発電機により各施設ごとに確保されており、電源を供給する環境を構築するため、関係団体と連携し、電源供給の実現を強力に国や県に働きかけていく。 ・EV車の課題である航続距離・充電環境の不足や、高額で大容量のバッテリーなどの課題解決のため、関係機関へのワイヤレス給電社会実験への参画の呼びかけに取り組んでいく。</p>		